

令和5年度7月全校集会校長講話

令和5年7月26日（水）

おはようございます。校長の鴨志田新一です。

毎日、暑い日が続いております。皆さんの体調管理はできていますか。

はじめに、この7月において、国内各地で豪雨災害により、河川の氾濫や土砂崩れ等による被害が、多数発生しました。皆さんや先生方の中にも、ご親戚やご友人などが、その地域にお住まいであり、被害に遭われたという方もいるかと思いますが。被害に遭われた方々に、この場をお借りしてお見舞いを申し上げます。

さて、本校は、2学期制ですので、1学期が終わるというわけではなりませんが、明日から35日間の夏休みに入ります。夏休みを前にして、校長から皆さんにお願いがありますので、聞いてください。

今日も暑いので、少し涼しい話をします。

イギリスのウェルズ出身の冒険家のクライヴ・ウィリアムス・ニコルさん、通称C. Wニコルという人の話です。ニコルさんは、作家や環境保護活動家など多くの肩書がありますが、とても日本を愛し、日本国籍を取得し、長野県黒姫山の麓（ふもと）に住んでいました。残念ながら、3年ほど前にお亡くなりになりました。

ニコルさんが、南極大陸を探検している時の話です。

南極などの極地では、長い間テントを張って、何日も何日も風と雪と氷の中でじっとしていなければならないこともあります。そういう時に、どういうタイプの人か辛抱強く、最後まで自分を見失わずに耐え抜けていけるのか。

ニコルさんによると、最後まで耐えられるのは、必ずしも頑丈な肉体を持った、いわゆる格闘技家のような人ではないということです。

例えば、南極でテント生活をしていると、どうしても無精になる。体裁も整えなくてもいいから、身だしなみも考えなくなってきました。それにも関わらず、中には、朝起きると、きちんと顔を洗い、髭（ひげ）を剃り、一応、服装も整え、髪もきちんとする人がいるということです。

そして、そういう人は、顔を合わせると「おはようございます」とあいさつし、物を食べる時は「いただきます」と言ってから、食べ始めます。

普通に考えると、生きるか死ぬかの極限状態では、礼儀や身だしなみの優先順位は低いのではないかと考えてしまいます。

しかし、そういう「あいさつ」ができる人、身だしなみが整えられる人、礼儀を忘れない社会的なマナーを身に付けている人が、極限状態でも、最後まで弱音を吐かず、最後まで耐え抜くことができるということです。

これは、おそらく日常からの習慣であり、どんな状況におかれても、それを自然に守っている人が、肉体的にも精神的にも強いことを意味しています。決して頑丈な肉体を持った人ではないのです。とても興味のある話です。

当たり前のことを当たり前にする。私は、このことを「凡事徹底」と呼んでいます。人間としての、生きる上でのマナー、礼儀、服装、あいさつ、これらのことを自然に行うことで、何事にも耐えることができる人間、志が高く、品格のある人間になることができます。

しかし、最初から自然に行うことはできません。最初は、意識して行い、徹底することで、自然となってきます。是非、夏休み中の一日の初めに、今日のお話を思い出して、一日、一日を積み重ねていき、有意義な夏休みを送ってください。そして、志が高く、品格のある人間になってください。

また、夏休み中には、埼玉県知事選挙もあります。既に選挙権を持っている人は、その権利を行使してください。

それでは、8月31日に学校が再開したとき、皆さんが元気で会えるように事故や怪我のないよう、自ら気を付けてください。

そして、何かトラブルが発生したときは、自分で解決しようとせず、必ず保護者や学校に相談をしてください。

私からは以上です。